

地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する一研究(その2) 一 共修授業に係る自由記述の 学科別及び年度別による比較分析をふまえて一

吉田麻衣(長崎純心大学人文学部)
潮谷有二(長崎純心大学人文学部)
永田康浩(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
地域包括ケア教育センター)
奥村あすか(長崎純心大学人文学部)
宮野澄男(長崎純心大学客員教授)
HP <http://www.n-junshin.ac.jp/cmwf/>
Facebook <https://www.facebook.com/cmwf.njunshin>

1

- このような状況の中で、長崎純心大学(以下、本学という。)では長崎大学医学部と連携し、文部科学省の「平成25年度未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」として、平成25年度から平成29年度まで「つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築一人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成」を実施し、学習背景の異なる大学及び学科とが医療系、福祉系の枠を超えて将来の医療職と福祉職との多職種連携に繋がる活動を積極的に展開してきた。
- 特に、当該事業の一環として、平成27年度に開設し、平成29年度まで実施してきている共修授業の概要や評価に関する分析結果については奥村ら(2017, 2018)、潮谷ら(2017)、永田(2017)、吉田ら(2018)が報告している。
- そこで、本研究ではその1に続き、平成27年度から平成29年度までに行われた共修授業の自由記述において年度別及び学科別によってどのような語が特徴的に用いられていたのかについてテキストマイニングを用いて探索的に明らかにすることを目的とした。

3

I. 研究目的

- 平成26(2014)年6月25日に公布された「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」第3条の規定に基づき、同年9月12日に厚生労働省により告示され、
- 平成28(2016)年12月26日に一部改正された「地域における医療及び介護を総合的に確保するための基本的な方針(総合確保方針)」において効率的で質の高い医療提供体制の構築と地域包括ケアシステムの構築及び、質の高い医療・介護人材の確保と多職種連携の推進等が打ち出されていることから、
- 地域包括ケアに係る人材の養成・確保や多職種連携教育の整備が求められることは周知の通りである。

2

II. 方法

	平成27年共修授業 (以下、H27という)	平成28年共修授業 (以下、H28という)	平成29年共修授業 (以下、H29という)
1. 調査期間	平成27年11月4日, 同年11月11日	平成28年10月26日, 同年 11月2日	平成29年10月25日, 同年 11月1日
2. 調査方法	共修授業1回目及び2回目の授業終了後に質問紙を用いた自計式の調査		
3. 調査対象者 ※	長崎大学医学部医学科 生124人, 同大学医学部保健学科 生110人, 本学36人(全て初履修 者)	長崎大学医学部医学科 生120人, 同大学医学部保健学科 生112人, 本学51人(その内、初履修 者37人, 履修済み者14人)	長崎大学医学部医学科 生123人, 同大学医学部保健学科 生114人, 本学46人(その内、初履修 者26人, 履修済み者20人)
4. 分析対象者	1回目:266人 2回目:265人	1回目:279人 2回目:270人	1回目:276人 2回目:272人
5. 分析方法	その1と同様に、計量的にテキストデータを分析することが可能である樋口(2004)が開発したKH Coder(Ver.2.00f)を用いて、年度別(H27, H28, H29)及び学科別(医学科(M), 保健学科(H), 本学(J)に分類)、共修回数別(1回目(1), 2回目(2))の外部変数による特徴語の共起ネットワーク分析及び対応分析を行った。		

※共修授業は、長崎大学医学部医学科生及び保健学科生は2年生対象の必修科目であり、本学では3年生以上を対象とした選択科目の一環として実施されている。

※共修授業は、1グループにつき、医学科生2~3人、保健学科生(看護学専攻・理学療法専攻・作業療法専攻)2~3人、本学生1~2人を配置し、合計6~7人の編成である。なお、本学生は、H27, H28の本学履修者の全てが現代福祉学科であり、H29の本学履修者は、人間心理学科が1名、比較文化学科が1名、それ以外は地域包括支援学科(旧称:現代福祉学科)であることを付記しておく。

4

6. 用いた変数	学科 (医学科 (M), 保健学科 (H), 本学 (J))
	年度-学科 (H27-M, H27-H, H27-J, H28-M, H28-H, H28-J, H29-M, H29-H, H29-J)
	年度-学科-共修回数 (H27-M-1, H27-M-2, H27-H-1, H27-H-2, H27-J-1, H27-J-2, H28-M-1, H28-M-2, H28-H-1, H28-H-2, H28-J-1, H28-J-2, H29-M-1, H29-M-2, H29-H-1, H29-H-2, H29-J-1, H29-J-2)

表Ⅱ-1 用いた変数における分析対象者数

年度	共修回数	年度					
		H27	分析対象者数	H28	分析対象者数	H29	分析対象者数
医学科	1回目	H27-M-1	n=122	H28-M-1	n=117	H29-M-1	n=120
	2回目	H27-M-2	n=124	H28-M-2	n=119	H29-M-2	n=120
保健学科	1回目	H27-H-1	n=109	H28-H-1	n=111	H29-H-1	n=112
	2回目	H27-H-2	n=106	H28-H-2	n=110	H29-H-2	n=109
本学	1回目	H27-J-1	n=35	H28-J-1	n=51	H29-J-1	n=44
	2回目	H27-J-2	n=35	H28-J-2	n=41	H29-J-2	n=43

Ⅲ. 倫理的配慮

- 調査の実施に伴う倫理的配慮としては、授業の導入において、回答は本授業の教育効果の評価及び今後の授業作成のために使用するとともに、記載内容が成績に影響することはないこと、さらに回答を拒否しても不利益が生じないことを説明し、調査への協力を得た。
- また、データクリーニングの際に、個人が特定されないように個人情報取り扱いに留意し、必要に応じて固有名詞などのマスキングを行った。
- なお、本研究における長崎大学生のデータに関しては、長崎大学医歯薬学総合研究科倫理委員会の承認を得て実施され、本学学生のデータについては、日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき実施された。

5

Ⅳ. 結果

1. 学科別の外部変数を用いた特徴語の分析結果

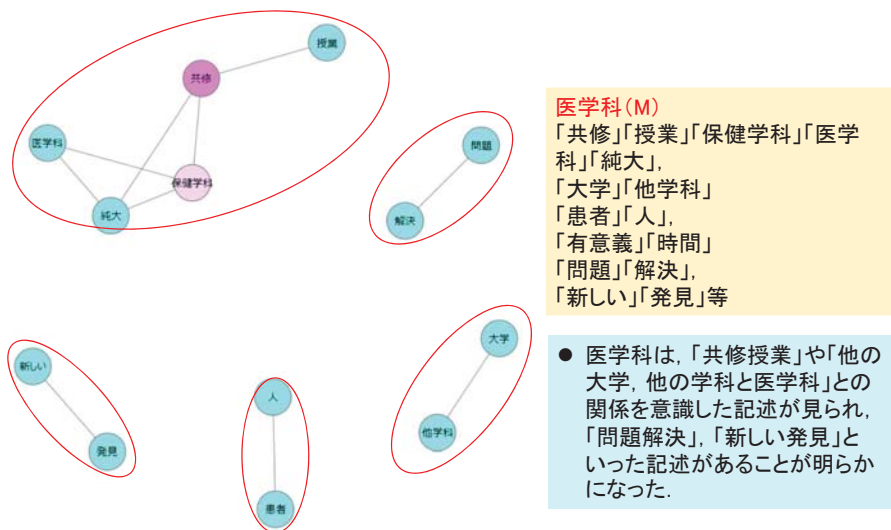
表Ⅳ-1 学科別の外部変数を用いた特徴語の一覧

医学科 (M)		保健学科 (H)		本学 (J)	
人	.267	出来る	.388	福祉	.195
授業	.224	思う	.354	視点	.164
患者	.206	考える	.318	意見	.162
知識	.185	自分	.305	感じる	.158
班	.182	ない	.304	出来る	.151
純大	.157	意見	.293	伝える	.150
介護	.133	視点	.272	聞く	.123
学部	.126	事例	.258	事例	.119
多い	.125	患者	.243	学生	.118
共修	.123	聞く	.223	医療	.117

- 医学科は「共修授業」「人」「患者」「介護」「知識」等の語が特徴的に記述されていた。
 - 「人」は「他大学、他学部の人の意見を聞くだけでも視野が広がるので、大変有意義だったと思う。」といった感想に使用されていることが明らかになった。
- 保健学科は、「出来る」「考える」「意見」「視点」等が記述されており、
 - 「ない」は、「自分では考えられなかった主張や発想が出てきて、とても充実した時間だったと思う」といった感想に使用されていることが明らかになった。
- 本学は「福祉」「視点」「意見」「伝える」「出来る」等が特徴的に記述されていた。
 - 「福祉」は、「自分にはなかった視点であり、福祉だけでは支援出来ないことも実感しました。」

6

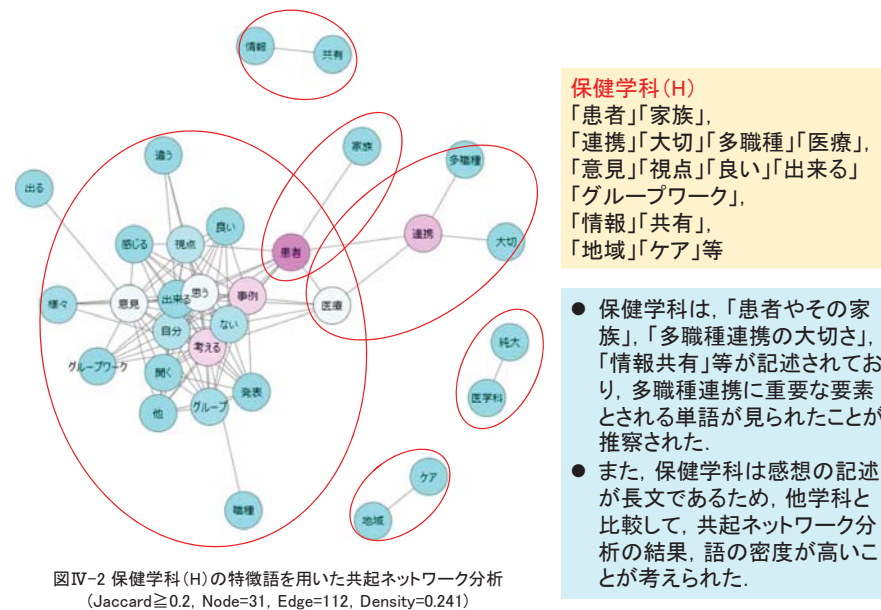
医学科 (M) の特徴語を用いた共起ネットワーク分析結果



図Ⅳ-1 医学科 (M) の特徴語を用いた共起ネットワーク分析 (Jaccard \geq 0.2, Node=13, Edge=10, Density=0.128)

7

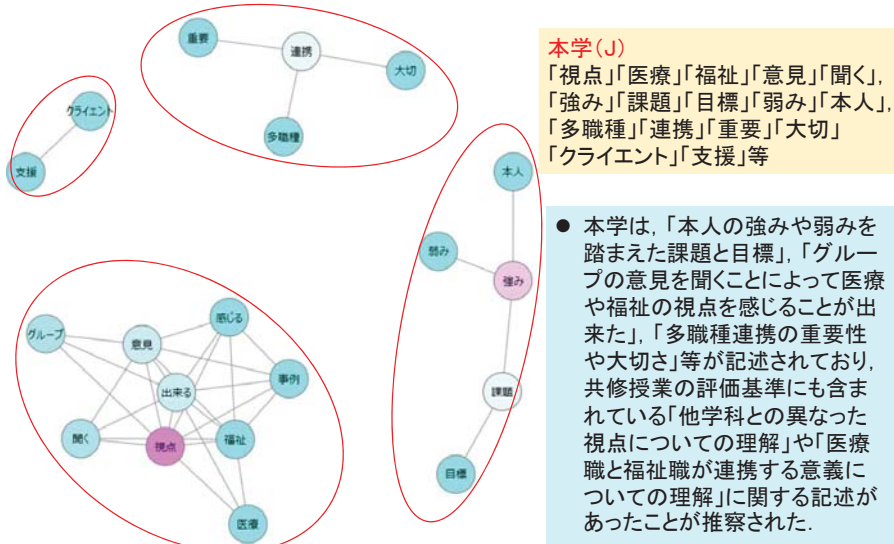
保健学科 (H) の特徴語を用いた共起ネットワーク分析結果



図Ⅳ-2 保健学科 (H) の特徴語を用いた共起ネットワーク分析 (Jaccard \geq 0.2, Node=31, Edge=112, Density=0.241)

8

本学(J)の特徴語を用いた共起ネットワーク分析結果



図IV-3 本学(J)の特徴語を用いた共起ネットワーク分析 (Jaccard ≥ 0.2 , Node=20, Edge=33, Density=0.174)

本学(J)
「視座」「医療」「福祉」「意見」「聞く」,
「強み」「課題」「目標」「弱み」「本人」,
「多職種」「連携」「重要」「大切」
「クライアント」「支援」等

- 本学は、「本人の強みや弱みを踏まえた課題と目標」、「グループの意見を聞くことによって医療や福祉の視座を感じる事が出来た」、「多職種連携の重要性や大切さ」等が記述されており、共修授業の評価基準にも含まれている「他学科との異なった視点についての理解」や「医療職と福祉職が連携する意義についての理解」に関する記述があったことが推察された。

9

学科別の共起ネットワーク分析において媒介中心性の高い語を含む感想文を抽出

- 医学科生の「共修」「保健学科」を含む感想文の一部

今日は**保健学科**や純大の方々と**共修**授業であったが、各学部、学校毎にこんなに視点が違うものかととても驚いた。特に違っていたのは、やはり純大の方で、私たちの医療方面の視点とは大きく異なる視点で物事を見ていて、とても感動した。かなり勉強になったので、またこのような機会を設けて欲しい。

本日**保健学科**、純大現代福祉学科の方との**共修**を行って、同じ利用者の方のために考えながらも、視点が違うとアプローチの方法なども異なっていることが分かりました。(略)

- 保健学科生の「患者」「連携」「事例」「考える」を含む感想文の一部

各自が準備した資料をもとに、**事例**のDさんに必要な社会資源について**考える**ことが出来たのではないかと思います。(略)1人の**患者**が在宅で生活していくためには様々なサービスと多くの職種が関わっていることをふまえて、**チームで連携**していくことが大切であると感じた。学生ではあるが、各学科、分野が違うため、それぞれの視点があることに気づいた。各方面から**患者**のアプローチをしていく必要があると思った。

今回、人生ではじめて具体的な**事例**をもとに多職種**連携**を体験したが、まず**患者**さんの意向を汲み取るのが難しかった。(略)うまく案を**考える**ことが出来なかった。しかし、これからのチーム医療においては必須のスキルであると思うため、積極的に取り組みたい。

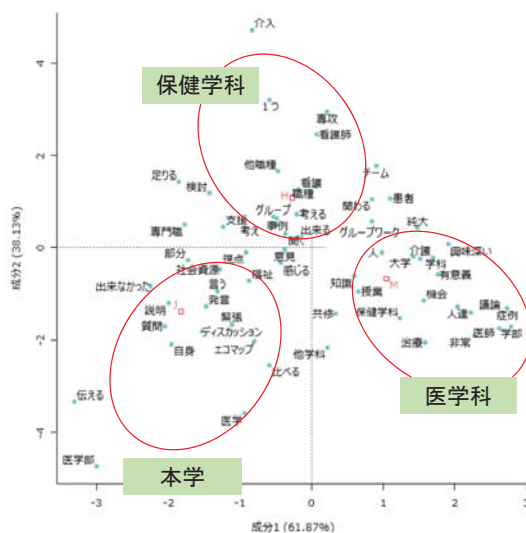
- 本学生の「視点」「強み」を含む感想文の一部

医学科、保健学科の学生と事例について話しをしてみたが、それぞれの専門性からの**視点**で話をすることが出来たと思う。(略)医療と福祉というそれぞれの**視点**も違うが、似たようなところ、考え方もあるのだった。強みも弱みもそれぞれあって、どれだけ利用者の**強み**を見つければ出来るのか、改めて大切なことだと思った。

今回共修授業に参加し、本人の**強み**を見つければ**視点**として、自分自身がまだ狭い**視点**しか持っていないことに気づきました。本人の知識、経験、住宅などより柔軟に捉えることを今後の課題にしたいと思います。(略)来週はもっと詳しく学習をし、授業に臨みたいと思います。(略)

10

2. 学科別の外部変数を用いた対応分析結果



図IV-4 学科別による対応分析の結果

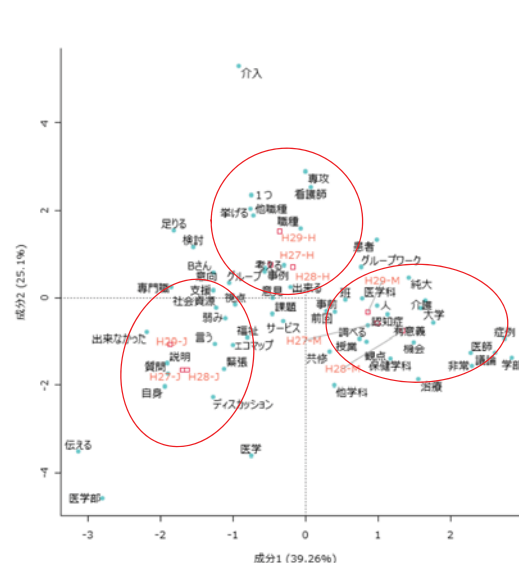
最小出現数36、最小文書数1
集計単位段落
品詞による取捨選択: 名詞、サ変名詞、形容動詞、ナイ形容、未知語、タグ、動詞、形容詞、名詞C、否定助動詞
分析対象となった抽出語: 227語
差意が顕著な語上位60語を分析に使用

医学科(M)
「有意義」「興味深い」「機会」「学科」「保健学科」「介護」「議論」「症例」等
保健学科(H)
「看護」「看護師」「他職種」「職種」「専攻」等
本学(J)
「説明」「ディスカッション」「質問」「発言」「言う」「エコマップ」「社会資源」等

- 学科別による違いが見られた。
- 医学科は、有意義や興味深いと行ったポジティブな言葉や症例や治療に関する単語が見られ、
- 保健学科は、看護師や看護、職種、他職種に関する記述が見られ、
- 本学は、説明や発言ということや、エコマップ、社会資源等の専門用語も見られたことが明らかになった。

11

3. 年度別及び学科別の外部変数を用いた対応分析結果



図IV-5 年度別及び学科別による対応分析の結果

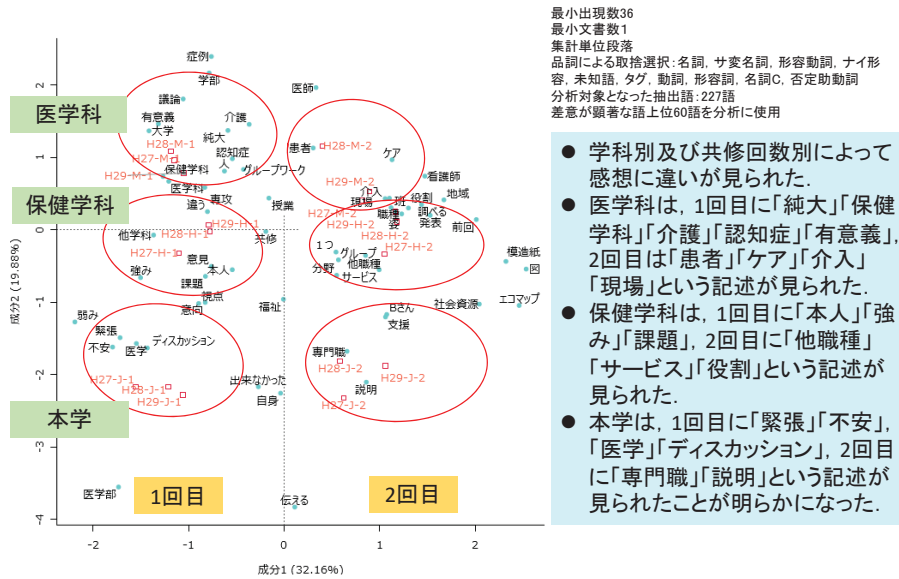
最小出現数36
最小文書数1
集計単位段落
品詞による取捨選択: 名詞、サ変名詞、形容動詞、ナイ形容、未知語、タグ、動詞、形容詞、名詞C、否定助動詞
分析対象となった抽出語: 227語
差意が顕著な語上位60語を分析に使用

H27-M, H28-M, H29-M(医学科)
「機会」「有意義」「認知症」「介護」「調べる」「学科」「観点」等
H27-H, H28-H, H29-H(保健学科)
「職種」「他職種」「事例」「専攻」「看護」等
H27-J, H28-J, H29-J(本学)
「説明」「ディスカッション」「弱み」「質問」「言う」「エコマップ」等

- 年度別でみると、各年度ともに同じ学科が付置されていることから、年度の違いを超えて、それぞれの学科の学生が類似した感想を記述していたことが推察できた。

12

4. 年度別及び学科別、共修回数別の外部変数を用いた対応分析結果



図IV-6 年度別及び学科別、共修回数別による対応分析の結果

V. 考察

- 本研究における分析結果から、年度の違いを超えて、学科によって感想が異なることや、2回に渡って共修授業を経験することによって1回目と2回目の感想が異なることを明らかにすることが出来た。このことから、**様々な学科が複数回に渡り、共修授業を行うことは多職種連携教育において何らかの効果を及ぼしているのではないかと推察されるが**、効果の内容については共修授業評価尺度とも併せて更なる検討を行う必要があると考えられる。
- そして、学科別の外部変数を用いた特徴語の分析の結果、医学科は、新しい発見に繋がったという記述があったことや、保健学科及び本学は、**共修授業の評価基準にも含まれている「多学科との異なった視点についての理解」や「医療職と福祉職が連携する意義についての理解」に関する記述があったことを明らかにすることが出来た。**
- また、年度別及び学科別、共修回数別の外部変数を用いた対応分析の結果、本学は、共修授業1回目に「緊張」や「不安」といった語が見られた。このことは、共修授業を実施する際に本学は班に1人、もしくは2人であるということや他大学生とのディスカッションの経験が少ない可能性があること等からも緊張や不安が高いことが推察され、**今後の共修授業において特に1回目に本学の学生がより安心して受講できるような体制の構築や教員の関わりが必要であると考えられた。**
- 今後の分析においては、文書の抽出を行い、整理、分類した文書の意味の解釈が必要であること、さらに、本学初履修者と本学履修済みである学生の感想文を分けて分析をすることも検討していく必要がある。

文献

- 樋口耕一(2004)「テキスト型の計量的分析—2つのアプローチの峻別と方法—」『理論と方法』, 19(1), pp.101—115.
- 樋口耕一(2014)「社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—」ナカニシヤ出版.
- 永田康浩(2017)「Interprofessional education involving both healthcare and social welfare as intercollegiate program」『第49回 日本医学教育学会大会』.
- 奥村あすか・潮谷有二・永田康浩 ほか(2017)「長崎純心大学の「地域包括ケア論」及び長崎大学医学部と長崎純心大学人文学部との共修授業に関する一研究—社会保障制度における地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み(その2)」『純心人文研究 第23号』, pp.91—114.
- 奥村あすか・潮谷有二・永田康浩 ほか(2018)「長崎純心大学の「地域包括ケア論」及び長崎大学医学部と長崎純心大学人文学部との共修授業に関する一研究—平成29年度の研究成果を中心として—」『純心現代福祉研究 22号』, pp.77—95.
- 潮谷有二(2012)「社会福祉士制度の見直しに関する実証研究—社会保障審議会福祉部会における議事録の基礎的分析を通して—」一般社団法人日本社会福祉学会 編『対論 社会福祉学3 社会福祉運営』, 中央法規出版, pp.281—324.
- 潮谷有二・永田康浩・奥村あすか ほか(2017)「長崎大学医学部と長崎純心大学人文学部現代福祉学科との共修授業に関する授業評価尺度の開発—社会保障制度における地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み(その3)」『純心人文研究 第23号』, pp.115—132.
- 吉田麻衣・潮谷有二・永田康浩 ほか(2018)「長崎純心大学の「地域包括ケア論」及び長崎大学医学部と長崎純心大学人文学部現代福祉学科との共修授業に関する一研究—平成28年度の研究成果を中心として—」『純心現代福祉研究 22号』, pp.57—75.

※ 本研究は、文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である。